

令和2年度 第2回 心の健康委員会

- 1 日 時
令和2年10月14日（水） 午後2時00分～
- 2 参加者
心の健康委員会 委員
- 3 意見交流テーマ
新型コロナウイルス感染症に対する子どもたちの不安について
- 4 委員会の意見交流



学校再開後の児童の様子

- 年度当初の休校が、子どもたちの生活に影響が出ている。休校期間中に家でゲームばかりをしている子どもたちもいた。その影響なのか、昼夜逆転をしてしまい、学校に来ることができない子もいる。
- 昨年度まで何とか学校に来ることができた子どもたちが、今年になり、休校で始まり、来ることができなくなった。子どもたちの生活は、運動会なし、修学旅行は日帰り、ここに向けてがんばろうという目標がない状態である。どうするといいいのか、何をしたらいいのかという迷いもある。
- 新型コロナウイルス感染症にかかったらという不安より、本来できることができない不安のほうが大きいと思う。授業もリコーダーはできない、音読もやっと少しできるくらいの状態。今までできていたことができないということの不安やストレスがある。
- 不登校傾向であった子たちの心が落ち着かない様子である。今回の休校も突然、起こったように、また急に休校があるのではないかと先が見えない不安がある。
- 今年度は、保健室の来室者も多い。1ヶ月あたりで昨年度と比べて多いと思う。メンタルから体調不良の子どももいる。来室した子どもに話を聞くと何に悩んでいるかわからないけど、心の不安を訴える。たとえば、今、私の勤務する学校では密を避けるため休み時間に外で遊ぶのは、学年で順番にしている。だから昨年度までのように、外で遊ぶことができない「もやもやした気持ち」があると思う。



給食時間の子どもたちの様子・歯みがきについて

- 今、給食はだまって食べるという指導をしている。給食の時間に放送でクイズをやるということも昨年まであったが、クイズをやるとおしゃべりをしてしまうということで給食の時間、楽しいことができない状態である。前を向いて黙々と食べている。給食が楽しみという子もいる。
- 食べている途中や食べ終わってからのかわりは、食器から感染がするかもしれないので、かわりもなしという学校もある。新型コロナウイルス感染症のため制限が多い。
- 小学生の給食センター見学、保護者の給食試食会を計画していたが中止となった。学校の授業時間数が足りないので食育の授業も見直しとなり、例年のように進めることが難しい状況である。給食の時間に栄養教諭として教室に行くときも、子どもたちは黙々と食べており、私もマスクをして教室に入り、様子を見て、声を出して指導することは控えている。
- 新型コロナウイルス感染症について、歯みがきが心配という話を聞く。日本歯科医師会ホームページには、歯みがきについて不安を解消できるような内容の記載もある。感染症を予防するという視点では、口腔ケアをした方がよいという報告もある。



高校生の心の不安・教職員の疲れ

- 高校生で不安で登校できないということはなく、不安に感じ、制限があるなかで過ごしているように思う。生徒よりも保護者が感染への不安があるようである。
- 体調が悪い生徒が保健室に来室すると「自分が感染していたらどうしよう。」という思いも正直あると思う。
- インフルエンザが流行する時期であり、新型コロナウイルス感染症と重なるのではないかと心配している。これから受験を迎える。そうすると他県、さらに感染者が多い地域で受験した生徒がすぐに登校してもよいかという迷いもある。もしかしたら生徒や保護者が他県で受験した次の日、登校してもよいか心配もこの先あるのでないかと考えている。
- 高校の相談担当の話では、高校1年生が仲間との関係が築けないという相談がある。最初に休校があり、その後も行事などもなく、新しい環境になった高校1年生が不安である。ストレスは、子どもだけではない。教職員も新型コロナウイルス感染症の対応でストレスを抱えている。たとえば、卒業式をどうやってやるのかということも、日々、対応が変わり、二転三転して、教師も大変であった。教師も様々な対応を求められてストレスを感じていると思う。情報を決めつけられないことも大切であり、柔軟に対応できるようにしないといけない。



保護者・PTA役員としての心配

- 子どもが学校に通っているのも、検温と健康チェックを毎日、行っている。アレルギーがあるので、咳・くしゃみ、鼻水がでるときがあり、その他のところに記載している。咳もするので、周りから「新型コロナウイルスに感染しているのではないか。」という目で見られるかもしれないという心配もある。
- インフルエンザの流行の時期である。予防接種を受けた方がいいのか、何をするといいのか、家庭で予防的できることは何か、迷うこともある。
- PTA活動が今、予定どおりにできない。資源回収もなかなかできない。母親委員の親子の活動、講演会もできない。PTAも身動きがとれない。「大丈夫じゃないの」という人もいて、人それぞれの考えがあるから、価値を共有しないといけなことを感じる。
- オンラインと対面の会議はやはり違う。オンラインは、一人が話す他に人が話すことができず、なかなかうまく活用できない。学校も見通しが持てないように、PTAも見通しが持てない。活動の制限がいつまで続くのか。



今後に向けて～ヒント①オンライン～

- 今、児童生徒や社会全体に不安があるが、本当かどうか分からないものへの不安がある。そのような分からないなかで、なんとかやっていくことができる人もいるが、分からないなかでうまくできない人もいる、不安を抱えている人もいることもわかってほしい。
- 今までの常識が変わった。オンラインで行うのは、悪いことばかりではなく、オンラインなら出席することができる不登校の生徒もいる。また、世の中がオンラインの会議も増えている。ネットをうまく使うことを考えていかないといけない。それでも対人関係は必要である。オンライン+対人関係ということができるといいのではないか。
- 学校では、関わり合いや生きがい的大事ではないか。人は一人では生きていけない。だからオンラインは、工夫が必要ではないか。新しいことを考えないといけない。学校も新しいことへの工夫を考えるとよいのではないか。



今後に向けて～ヒント②学校～

- 学校は、社会性を身に付けるところである。マスクをしているので表情がつかめない。目しか見えない。子どもたちのマスクの奥にある心の部分をつかむことの大切さを学校の教職員に伝えている。表情がわかりにくいなかでも、いじめ、差別のことを教職員がつかむことができるように心がけている。
- 学校も家庭も、専門の先生のご指導を聞きながら、よりリスクを下げることを考え対応をしていくしかないと思う。何が正しいのか正直、わからないところがある。一つずつ判断してやっていくしかないと思っている。たとえば、学校行事のこともリスクを下げることを考え、生徒や保護者のことを思い、一番良いと考える方法を考えていくしかない。

